

## 2018年度（第63期）事業報告

自 2018年4月 1日

至 2019年3月31日

### 1. 会員の異動状況

会員の種類		本期末会員数	前期末会員数	差引増減
名誉会員		15	14	1
正会員		2466	2513	▲47
学生会員		158	157	1
維持会員	S 級	4	4	0
	A 級	9	9	0
	B 級	5	5	0
	C 級	13	13	0
	D 級	13	14	▲1
	E 級	123	120	3
	合計	167	165	2
	公共会員	11	11	0

### 2. 事業の状況

#### (1) 行事

行事名	講演件数	参加者数	期日	場所
第9回日中トライボロジー先端フォーラム	20	66	2018. 4. 12-14	福岡
トライボロジー会議 2018 春 東京	199	827	2018. 5. 21-23	東京
第62期定時社員総会・特別フォーラム	1	115	2018. 5. 22	東京
2017年度評議委員会	0	44	2018. 5. 22	東京
第49回トライボロジー入門講座	8	75	2018. 7. 5-6	東京
第11回トライボロジー・スキルアップ講座	4	38	2018. 7. 19	東京
第11回トライボロジー入門西日本講座	8	59	2018. 10. 4 - 5	兵庫
第9回トライボロジー秋の学校	2	100	2018. 10. 4 - 5	愛知
第11回トライボロジーテーマ別基礎講座	4	51	2018. 10. 24	東京
第2回日韓トライボロジーシンポジウム	10	53	2018. 10. 31	韓国 平昌
トライボロジー会議 2018 秋伊勢	240	642	2018. 11. 7-9	三重
第2回日本-台湾トライボロジーシンポジウム (TJTS2018)	11	32	2018. 11. 15-16	台湾 台北
第455回トライボロジー懇談会	1	10	2018. 11. 22	東京
第4回トライボロジー国際技術交流会	6	54	2018. 11. 22-23	タイ バンコク
第64回トライボロジー先端講座	4	22	2018. 12. 19	東京

- ・ 教育講習の各種講座（入門，テーマ別，スキルアップ，先端等），懇談会を例年通り開催した．スキルアップ講座ではトライボロジー要素設計のための信頼性試験について取り上げた．先端講座ではメンテナンス・トライボロジー技術の適用事例と最新技術について取り上げた．
- ・ トライボロジー会議では，2018 春東京および 2018 秋伊勢において，実用化技術の研究発表をしやすくするように改めたプログラム作成に際しての分類を継続し，企業の発表奨励に取り組んだ．
- ・ 海外向け活動にも積極的に取り組み，第 9 回日中トライボロジー先端フォーラム，第 2 回日韓トライボロジーシンポジウム，第 2 回日台トライボロジーシンポジウムを開催した．
- ・ 日系海外現地法人で働くエンジニアの技術交流機会の提供を目的に，第 4 回トライボロジー国際技術交流会をタイ・バンコクで開催した．

## (2) 会誌

- ・ 会誌「トライボロジスト」，電子版トライボロジスト誌（J-STAGE に掲載），英文電子ジャーナル「Tribology Online」を発行した．
- ・ 「トライボロジスト」は 12 回発行．ページ数本文 799 ページ（63 巻 4 号～64 巻 3 号）．特集として「優れた若手研究者に学ぶ 一異分野の研究」，「高性能潤滑剤設計のための新たな材料と技術」，「船用エンジン」，「金型のトライボロジーの最新研究動向」，「ベルトにまつわるトライボロジー」，「IoT 時代におけるインフォメーション」，「いろいろな微細加工を通じた表面創製」，「医療を支えるトライボロジー」，「セラミックスのトライボロジー ー高機能化のための技術ー」，「研究会がリードするトライボロジー分野の最新動向」，「自動車用内燃機関の動弁系・動弁駆動系を支えるトライボロジー技術」，「潤滑油基油および添加剤の基礎と技術動向」を刊行した．
- ・ また，「随筆 トライボ草子」，「トライボロジー・ナウ トライボロジー海外体験記 ーアラウンド・ザ・ワールドー」，「入門講座 トライボロジー教室」，「技術資料 トライボツール開発記 ーブレイクスルーへの挑戦ー」の連載を継続している．
- ・ Tribology Online, Vol.13, No.3 および No.6 で, The 6th World Tribology Congress, Beijing, 2017 の特集号「WTC 2017 Special issue (Part 1, Part 2)」を発行した．

## (3) 研究会

学会指定研究会として「新領域・新分野開拓研究会」を新設し，今期は 30 の研究会が活動を行った．なお，会員提案研究会「エロージョンとその応用研究会」は今期をもって終了する．

研究会名	種別*	回数	場所
新領域・新分野開拓研究会	学会指定	4	東京
添加剤技術	産学協同	4	東京・三重・千葉
固体潤滑	産学協同	5	東京・三重・佐賀
グリース	産学協同	4	東京・栃木
転がり軸受寿命	産学協同	2	愛知・東京
エンジン潤滑	会員提案	3	東京
転がり疲れ	会員提案	2	神奈川・奈良
シール	会員提案	2	東京・埼玉

鉄道のトライボロジー	会員提案	1	東京
ファイル記憶のトライボロジー	会員提案	1	神奈川
摩 耗	会員提案	2	東京・山梨
メンテナンス・トライボロジー	会員提案	1	茨城
塑性加工のトライボロジー	会員提案	2	神奈川・東京
トライボケミストリー	会員提案	2	東京・北海道
自動車のトライボロジー	会員提案	4	愛知・高知
アルミニウムのトライボロジー	会員提案	1	愛知
高分子材料のトライボロジー	会員提案	3	東京
“超”を目指す軸受技術	会員提案	3	京都
スペーストライボロジー	会員提案	1	茨城
分子シミュレーションのトライボロジーへの応用	会員提案	1	兵庫
変速機のトライボロジー	会員提案	2	東京
機能性コーティングの最適設計技術	会員提案	2	岐阜
テクスチャリング表面のトライボロジー	会員提案	3	東京・福井
エロージョンとその応用	会員提案	2	三重・福井
境界潤滑	会員提案	1	東京
工作機械のトライボロジー	会員提案	3	東京
トライボダイナミクス	会員提案	2	神奈川
表面力	会員提案	3	東京・長野
日本海トライボロジー	地 区	1	富山
北海道トライボロジー	地 区	1	北海道

＊) 研究会の旧種別との対比は次の通り。

学会指定・・・第1種，産学協同・・・第2種，会員提案・・・第3種

#### (4) 主な取り組み

学会員のメリット向上，学会のガバナンス・コンプライアンスの強化を目的として各委員会が目標を設定し，理事会でフォローアップしながら以下に取り組んだ。

- ・ 62期の非会員向けアンケートに続き，63期では正会員向け Web アンケートを実施した。これらの結果を分析し，会員メリットおよび会員サービスの向上，会員増強のための課題と具体的施策を検討し，各委員会と共有した。
- ・ 学会の活性化と継続的な発展のためにはトライボロジーの啓発活動推進と広報活動の強化が最優先課題と位置づけ，64期から取り組むべき重点活動内容と実行計画を策定した。
- ・ 事務局員の適正な労働環境を確保しつつ，柔軟かつ相互補完が可能な事務局体制を構築するため，事務局員を1名増員した。
- ・ 規程類の制定1件，改定15件を実施し，現行ガバナンスと整合した規程類の整備が一旦完了した。
- ・ 会誌「トライボロジスト」に加え，電子版トライボロジスト誌（J-STAGE に掲載），英文電子ジャーナル（Tribology Online）を発行した。
- ・ 会誌「トライボロジスト」出版費削減活動（第2次）を推進した。

- ・ 会誌「トライボロジスト」に掲載されている和文論文の完全オンライン化を見送った。
- ・ Tribology Online の校閲業務において外国人 Associate Editor 11 名を起用し、国際化をさらに推進した。
- ・ Tribology Online が Clarivate Analytics 社の ESCI (Emerging Sources Citation Index)に掲載された。
- ・ 春秋開催のトライボロジー会議で論文（技術論文含む）の投稿勧誘を行った。
- ・ 米国 STLE と論文出版関係の情報交換を行った。
- ・ トライボロジーハンドブック・トライボロジー辞典の改定に向けて、書籍出版体制を見直し、委員会の再編を行った。
- ・ 教育講習の各種講座（入門、テーマ別、スキルアップ、先端等）、懇談会の開催と並行して、講座再編の委員会を立ち上げ、第 62 期計画に沿った新講座の実施（第 64 期を予定）に向けた準備を行った。第 63 期は講師および参加者の利便性を考慮して開催時期の見直しを行った。
- ・ 英語版ホームページの構成見直しを図り、日本語版と同様のお知らせ機能を付与した。
- ・ 学会指定研究会として「新領域・新分野開拓研究会」を立ち上げ、学会の柱となる研究領域・分野の開拓を開始した。
- ・ 規程の改定に伴う研究会の継続要件審査を初適用し、課題の抽出とフィードバックを実施した。
- ・ 論文賞および TROL 論文賞の一本化を決定した。
- ・ 表彰委員会の諮問機関として功績賞再定義部会を設置し、功績賞の再定義に着手した。
- ・ 学生会員が在学期間に受賞できるように学生奨励賞の制度の見直しに着手した。
- ・ 協賛学会の見直しをした。さらに会員増強の一環で、非会員の参加登録料の見直しも行った。
- ・ トライボロジー会議 2018 春東京では、発表登録のし易さを考慮し、分類分けを変更するとともに学術分類をベースに聴講し易いプログラムを構成した。
- ・ 秋開催のトライボロジー会議 2018 秋伊勢では例年にならい、シンポジウム、イブニングフォーラム、特別講演会、企業展示およびランチョンセミナーを企画し、企業技術者・研究者に親しみやすい大会を目指した。
- ・ 米国 STLE と連携（論文出版関係の情報交換、若手シンポジウム等）の覚書を締結し、STLE の年次大会（ミネアポリス）及び Tribology Frontiers Conference（シカゴ）において連携の進め方を協議した。また、ドイツトライボロジー学会 GfT と相互連携の覚書を締結した。
- ・ ITC Sendai 2019 の講演数・参加数増大のために名刺大のパンフレットを 2018 年の種々の国際会議で配布するとともに、国際会議懇親会の場合での情報提供を行った。